

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

加川 五十歳代前半に、近づく定年後の趣味の一つと見据え、俳句を始めました。滑稽俳句は、平成二十一年に友人の勧めで応募した滑稽俳句大賞に入選したのが直接のきっかけです。以前から文芸川柳を齧っていたことも影響しているでしょうか。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

加川 世の中の動きや日常生活の一コマをユーモアを込めてストレートに俳句にできること。作る側からはストレスの発散になるのが一番です。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

加川 卑猥や中傷でなく、勿論、駄洒落や言葉遊びにならず、心に響く好感のもてる笑いだと思います。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かった事は？

加川 作句は頭の体操になり、もう一人の自分を発見できます。また、他の人の佳句を鑑賞できることも楽しみです。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

加川 私が心掛けているのは、先ず俳句として体を成しているか、着想・表現が他人真似でないか、時事性よりいつの代にも通じる心に響く句か、ということです。まあ、難しい事ではあります。

**【代表句】**

袴からブーツ覗かせ卒業す  
生き甲斐の議論も尽きて鰻食ふ  
枝豆やまさに父似の指づかひ  
若い気を昨日脱ぎ捨て着ぶくれる  
少子化の秘策も練って日向ぼこ